

# Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

## 1 はじめに

Arcserve Unified Data Protection 8000 シリーズ (以下、Arcserve UDP アプライアンス) をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品をご使用する前に、本書を必ずお読みください。

## 2 梱包内容の確認

本製品には、以下のものが梱包されています。はじめに、以下のすべてが入っているかをご確認ください。万一不足品がございましたら、早めに販売店にご連絡ください。製品が弊社の出荷日から 30 日経過すると、不足品の補充が有償になる事があります。

製品内容	数量	確認欄
Arcserve UDP アプライアンス本体(シリアル番号が本体天板または背面に貼付)	1	
Arcserve UDP アプライアンス フェイス プレート	1	
ラック マウント レール キット	1	
電源ケーブル	2	
Windows プロダクトキー(本体天板カバーに貼付)	1	
はじめにお読みください(本書)	1	

- ※ ライセンスキー等を記載したライセンス プログラム証明書は別途電子メールにてお納めします。
- ※ オプション増設カードを購入された場合、各メーカーのドライバ更新のご案内を同梱する事があります。

## 3 最新情報のお知らせ

製品の最新情報は、弊社 WEB サイトをご参照ください。サポート サイトでは機能改善や不具合修正のためのパッチや注意事項などをご案内しています。

- ・Arcserve シリーズ 製品情報 (概要紹介、カタログなど)  
<https://www.arcserve.com/jp/>
- ・サポート サイト (注意/制限事項、動作要件、技術情報、マニュアルなど)  
<https://support.arcserve.com/s/?language=ja>

## 4 マニュアル

最新のマニュアルは、サポート サイトより入手いただけます。

- ・マニュアル一覧  
<http://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/bookshelf.html>
- ・Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド  
[https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf\\_Files/PDF/appliance\\_user\\_guide.pdf](https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf_Files/PDF/appliance_user_guide.pdf)

## 5 安全に関する注意事項

上記「Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド」の第 9 章に安全に関する注意事項をまとめています。本製品を使用する前に必ずご覧ください。

## 6 株式会社ニューテックについて

ニューテックは Arcserve UDP アプライアンスのハードウェアを供給しています。Arcserve はニューテックと協力し、本製品のサポートをお客様に提供します。

ご注意:本書の内容は、2018 年 12 月 17 日現在のものです。  
改善のため、事前の予告無く変更する場合があります。  
Printed in Japan.

arcserve®

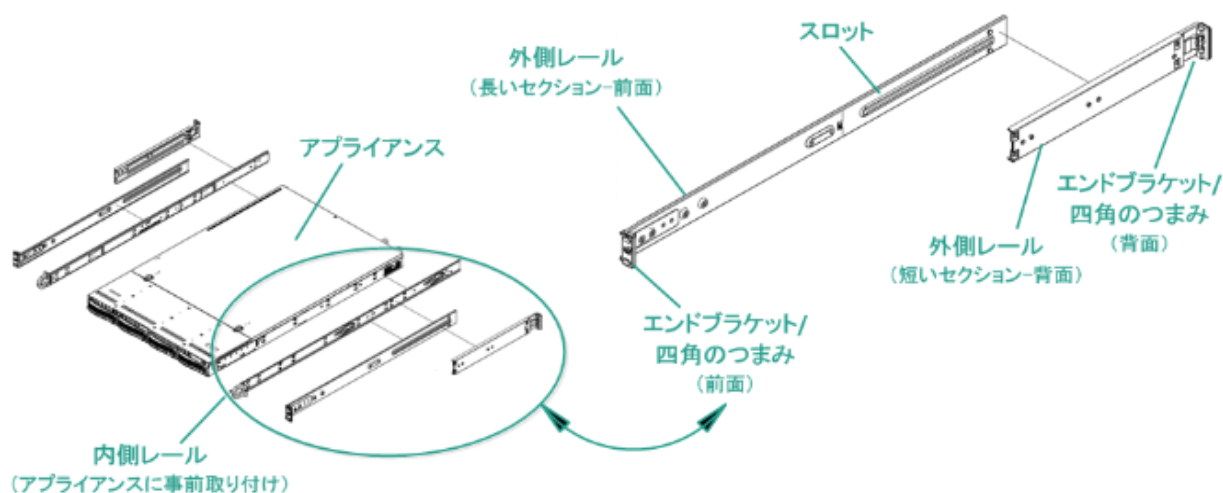
## 7-1 設置方法(1U モデル: Arcserve UDP 8200, 8220, 8200-6, 8220-6)

アプライアンスをラックに固定するため、同梱のラック マウント キットを利用できます。このキットは、アプライアンス本体に取り付け済みの内側レールと、外側レールで構成されています。

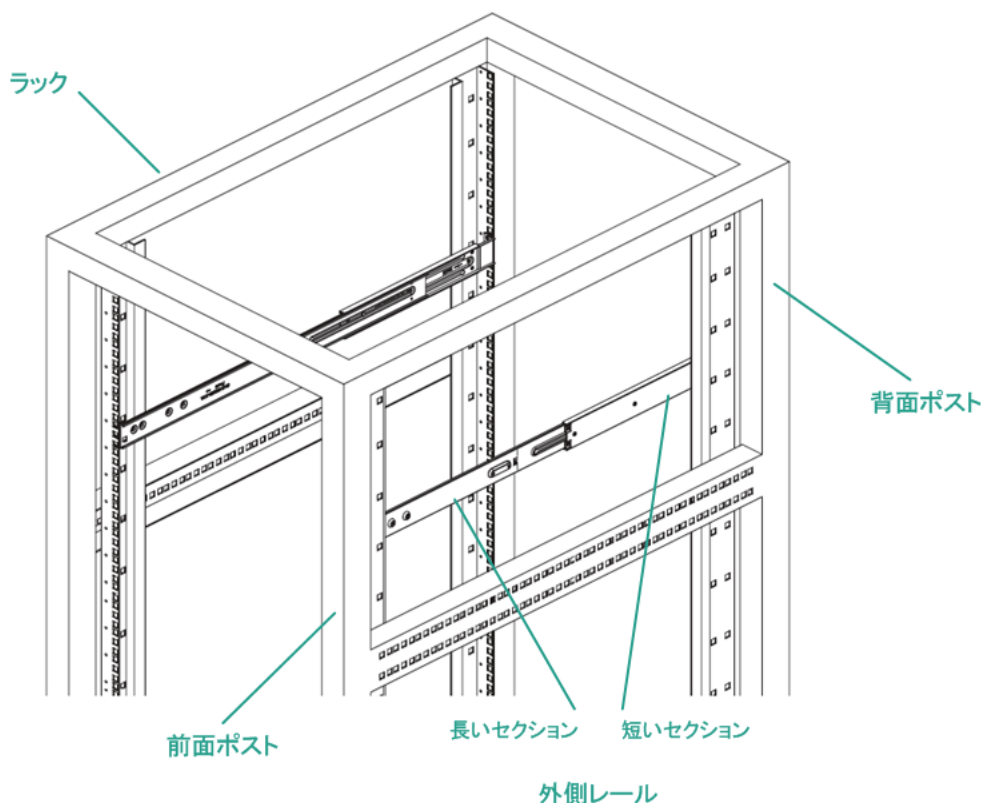
1. 設置場所の前面および背面に気流を塞ぐような障害物がない事を確認します。設置場所で常に適切な動作温度が維持され、熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じないことを確認します。ラックにはレベリング ジャッキとスタビライザが適切に取り付けられていることを確認します。1つのラックに複数の機器を取り付ける場合は各分岐回路の総負荷が定格容量を超えないことを確認します。これ以降の設置作業は安全のため必ず複数人で実施してください。

注: 外側レールは2つのセクションから構成されます。設置後には、長いセクションがラックの前面ポスト(支柱)に取り付けられ、短いセクションがラックの背面ポストに取り付けられます。

2. 外側レールの短いセクションと長いセクションのピンを対応するスロットの穴に合わせて取り付けます。



3. 外側レールの短いセクションの2つの四角形つまみが、背面ポストの四角形の穴に合うようにしっかりと取り付けます。保守性を考慮し、アプライアンスはラックの低い位置に取り付けます。



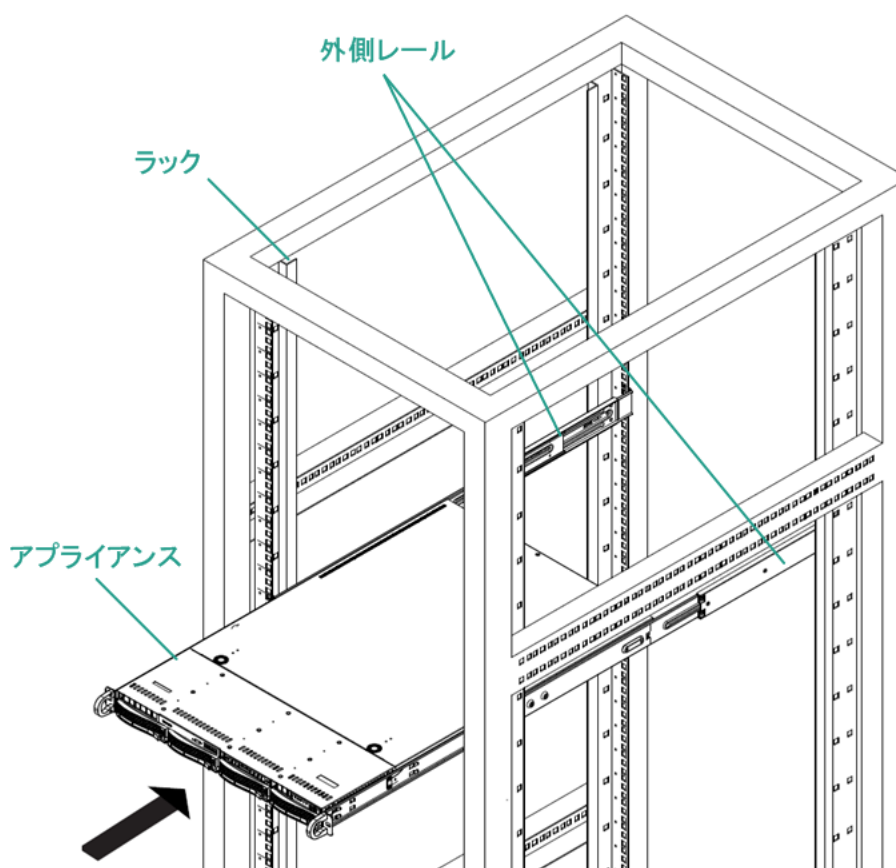
## Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

4. 組み立てられた外側レールの全体の長さを調整し、レールがラック内に水平に収まるようにします。
5. 外側レールの長いセクションの 2 つの四角形つまみが前面ポストの四角形の穴に合うようにしっかりと取り付けます。
6. 外側レールを取り付けた状態で、短いセクションと長いセクションを、ラックの内側から、皿ワッシャーと短い皿ネジを使用して 2 箇所固定します。
7. もうひとつの外側レールに対して手順 2～6 を繰り返します。左右のレールの高さが一致するように取り付けます。

注: アプライアンス本体の側面には内側レールがあらかじめ取り付けられています。必要に応じて内側レールの延長も可能です。内側レールを延長しない場合は、アプライアンスをラックから取り外す際にご注意ください。本体後端より先にレールが抜けます。

注: アプライアンス本体を取り付ける前に、本体天板に貼付されているシリアル番号(英数 12 文字)と Windows プロダクトキー(英数 25 文字)を控えておいてください。シリアル番号はテクニカルサポートへの問合せの際に必要になります。

8. アプライアンスを慎重に持ち上げ、内側レールの後端をラックにマウントされた外側レールの前端に合わせて挿入します。両方の側を適度に押しながらアプライアンスをラック内の設置場所までスライドしてロックさせます(カチッと音がするまでスライドします)。

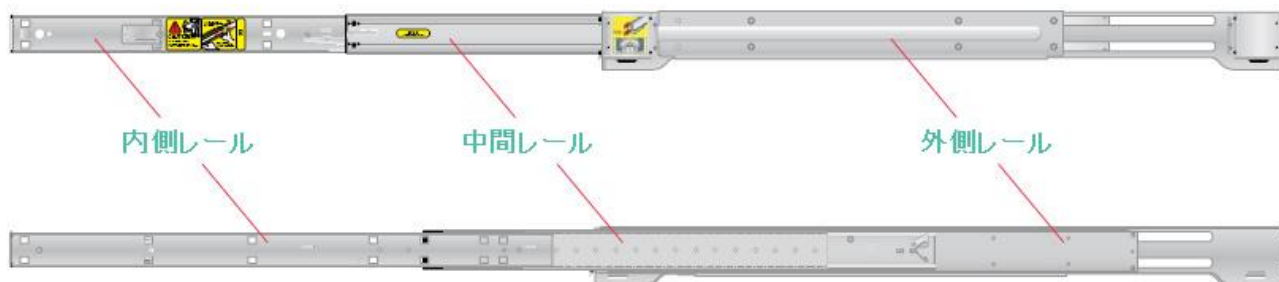


9. 最後に、長い皿ネジと皿ワッシャーを使用し、シャーシ前面のハンドル部分にある穴をネジ止めします。左右 2 箇所ともネジ止めします。

# Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

## 7-2 設置方法(2U モデル: Arcserve UDP 8400, 8420)

アプライアンスをラックに固定するため、同梱のラック マウント キットを利用できます。このキットには、下図のラック レール アセンブリが含まれます。



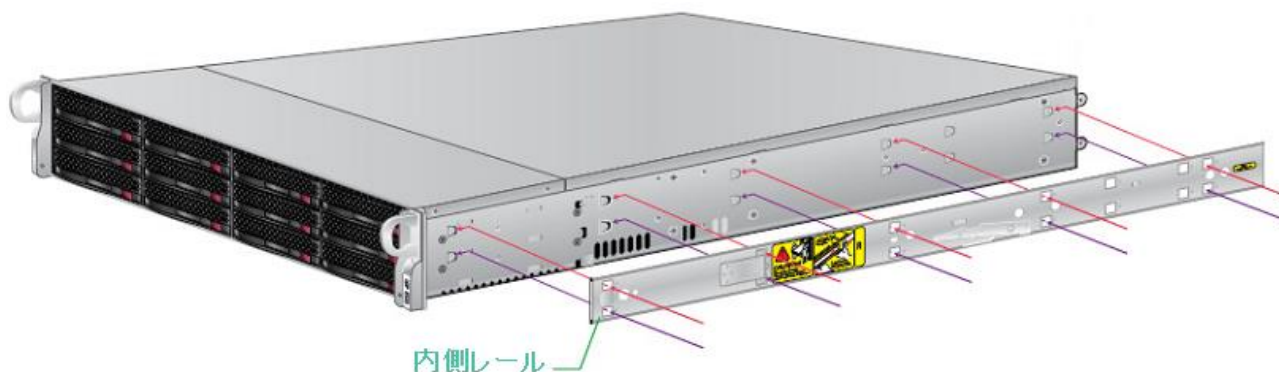
注: ラック レール アセンブリは左右で異なります。特に内側レールを取り間違えないよう注意してください。

注: 中間レールの前方にあるボール ベアリング シャトルは中間レールから取り外さないようにしてください。

1. 設置場所の前面および背面に気流を塞ぐような障害物がない事を確認します。設置場所で常に適切な動作温度が維持され、熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じないことを確認します。ラックにはレベリング ジャッキとスタビライザが適切に取り付けられていることを確認します。1つのラックに複数の機器を取り付ける場合は各分岐回路の総負荷が定格容量を超えないことを確認します。これ以降の設置作業は安全のため必ず複数人で実施してください。
2. ラック レール アセンブリから内側レールを取り外します。レールを最大まで引き伸ばし、固定タブを押し下げて内側レールを前方に引き出します。



3. 内側レールをアプライアンスに取り付けます。内側レールの穴とアプライアンスの両側にあるフックを合わせるようにはめ込みます。その後、内側レールをアプライアンス前方にスライドさせ、ロックされることを確認します。



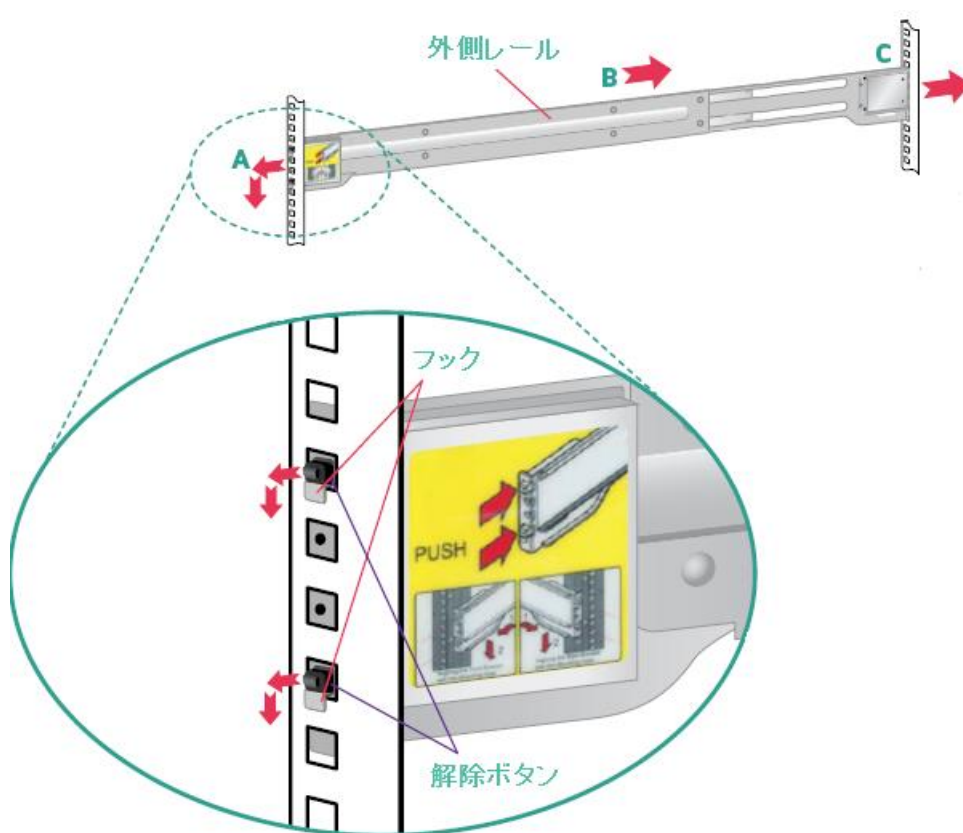
4. 1本の M4 x 6 皿ネジを後端のネジ穴で締めて、内側レールをアプライアンスに固定します。
5. もうひとつの内側レールに対して、手順 2~4 を繰り返します。

## Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

- 手順 2 で伸ばした中間レールの固定タブを押し下げて、中間レールを外側レールに収納します。



- 外側レールをラックの前面ポスト(支柱)に取り付けます。外側レールのフックが下向きになるようにラックの取付穴に差し込みます。解除ボタンにより、レールが正しい位置に固定されます。(下図の A)  
なお、保守性を考慮し、アプライアンスはラックの低い位置に取り付けてください。
- 外側レールの後部をラックのサイズに合わせて引き伸ばし、レールがラック内で水平になるように調整します。(下図の B)
- 外側レールをラックの背面ポストに取り付けます。外側レールのフックが下向きになるようにラックの取付穴に差し込みます。解除ボタンにより、レールが正しい位置に固定されます。(下図の C)



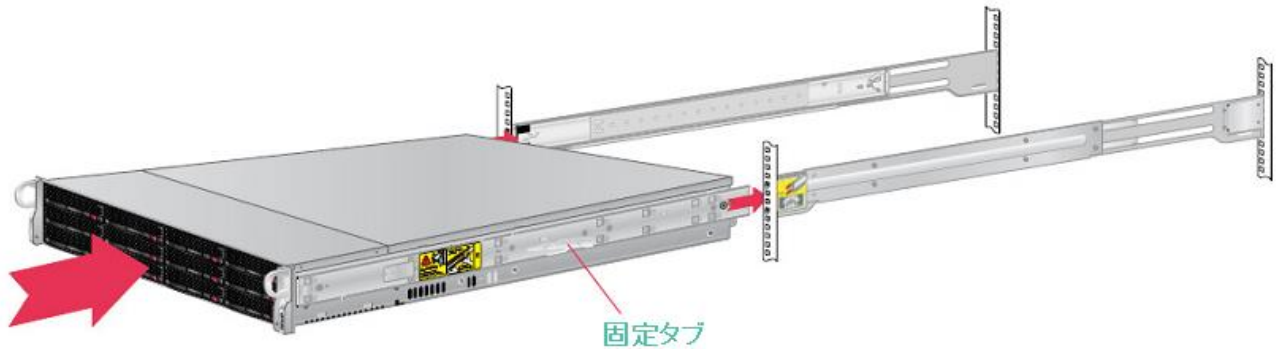
- 外側レールを取り付けた状態で、前面から M5 x 12 皿ネジとワッシャーを使用して上下のネジ穴にネジ止めします。中央のネジ穴はアプライアンスの固定に使用するため、ここでは使用しません。背面も同様に 2 箇所固定します。
- もうひとつの外側レールに対して、手順 6~10 を繰り返します。左右のレールの高さが一致するように取り付けます。



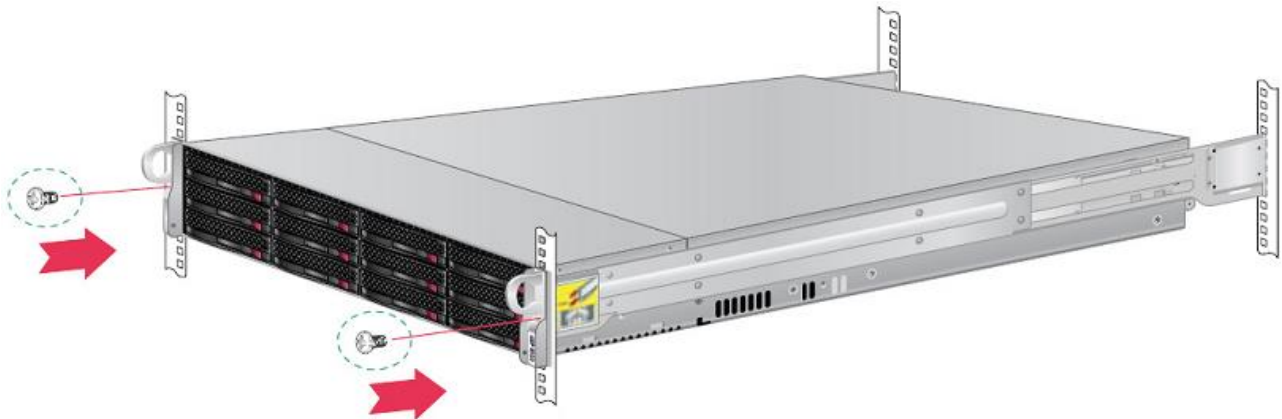
## Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

注: アプライアンス本体を取り付ける前に、本体背面に貼付されているシリアル番号(英数 12 文字)と、本体天板に貼付されている Windows プロダクトキー(英数 25 文字)を控えておいてください。シリアル番号はテクニカルサポートへの問合せの際に必要なになります。

12. アプライアンスを慎重に持ち上げ、内側レールの後端をラックにマウントされた中間レールの前端に合わせて挿入します。内側レールの固定タブが正しい位置に収まるまで、両方の側を適度に押しながらアプライアンスをスライドします。(カチッと音がするまでスライドします)。
13. 左右の内側レールの固定タブを同時に押し下げ、ラックの一番奥までアプライアンスを押し込みます。



14. アプライアンス ハンドルの穴に M5 x 20 トラスねじを差し込んでネジ止めします。左右 2 箇所ともネジ止めします。

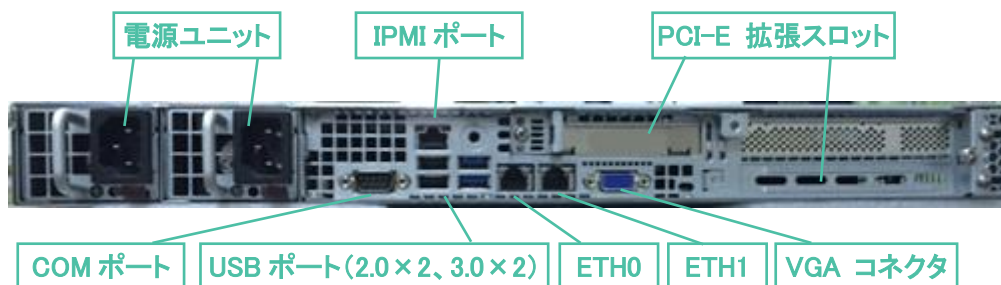


## 8 ケーブルの接続

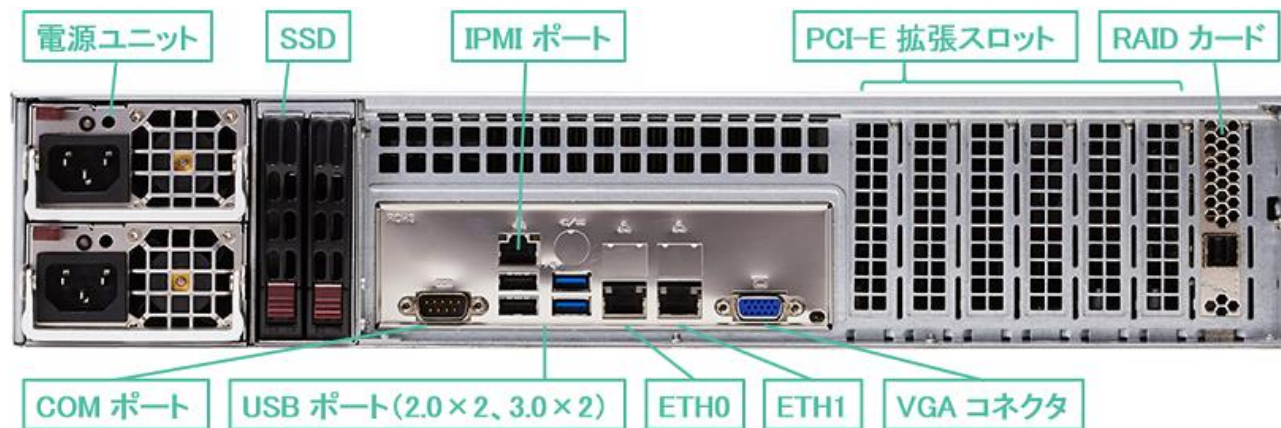
1. LAN ケーブルをイーサネットポートに接続します。前面パネルで、対応するネットワーク アクティビティの LED が点灯します。(ETH0 ポート = ネットワーク 1 LED、ETH1 ポート = ネットワーク 2 LED)
2. 電源ケーブルの一端をアプライアンスの背面に接続し、もう一端を電源に接続します。コンセントは奥まで確実に挿入し、必ずアースを取ってください。
3. モニタとキーボードを接続します。
4. IPMI (※)専用ポートを LAN ケーブルでネットワークに接続します。IPMI ポートのデフォルト IP アドレスは「192.168.1.2」です。必要に応じて BIOS セットアップで変更してください。

注： IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。これはできる限り早めに他の値に変更してください。デフォルトのパスワードを変更する方法については、「Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド」を参照してください。

<1U モデル: Arcserve UDP 8200, 8220, 8200-6, 8220-6)の背面>



<2U モデル: Arcserve UDP 8400, 8420 の背面>



※ IPMI(Intelligent Platform Management Interface)は OS から独立したサーバのリモート監視/管理を可能にする業界標準のインターフェースです。IPMI を使用することで、例えばリモートで Arcserve UDP アプライアンスの電源をオン/オフしたり、Arcserve UDP アプライアンス内部の温度やファンの状態を監視したりすることができます。

## 9 電源を入れる

1. 前面パネルで電源ボタンを押します。電源 LED が点灯します。
2. フェイス プレートを前面パネルに取り付けます。

重要: アプライアンスの電源が初めて入ると、自動的に数回再起動されることがあります。これは、初回開始の正常な動作です。

<1U モデル: Arcserve UDP 8200, 8220, 8200-6, 8220-6) の前面>



<2U モデル: Arcserve UDP 8400, 8420 の前面>



注: HDD は決して取り外さないでください。特に通電中に HDD を取り外すと故障する事があります。誤操作による故障は、有償での修理対応になります。

注: この後の手順の中で、OS の再起動に数十分を要する事があります。この時決して電源を切らないでください。Windows が破損し、起動しなくなる恐れがあります。

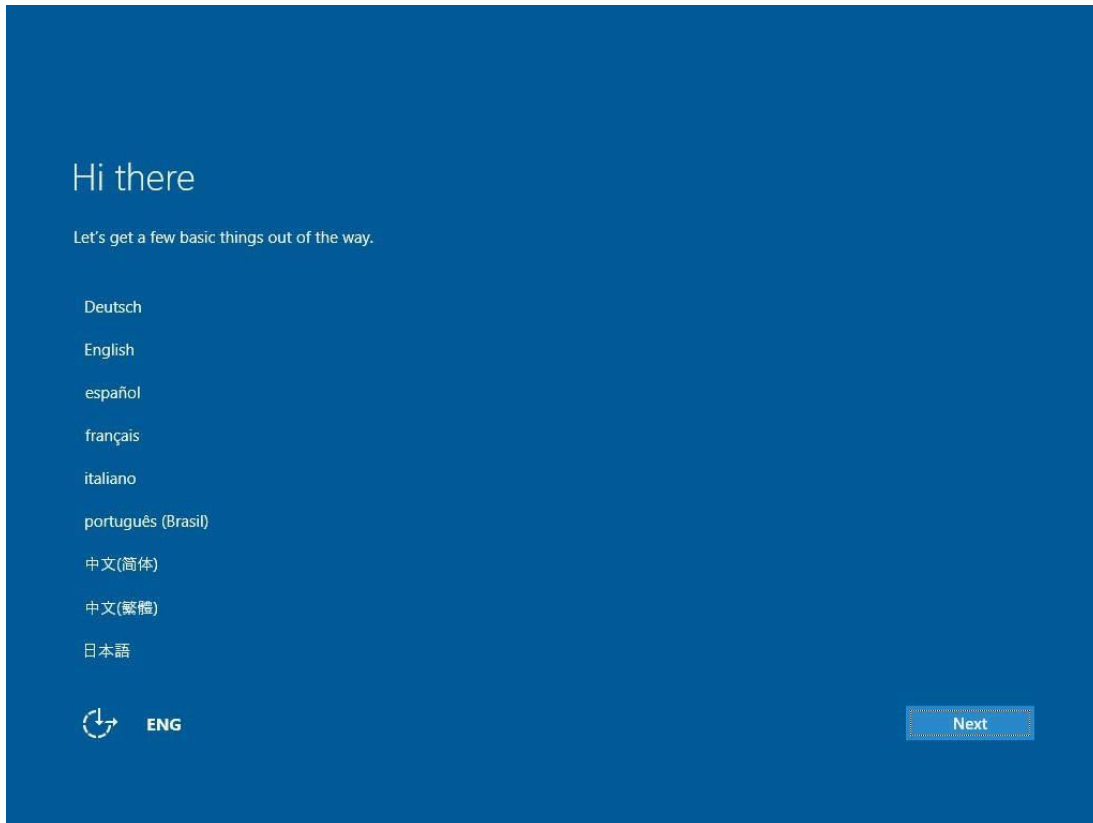


## 10 環境設定ツールの実行

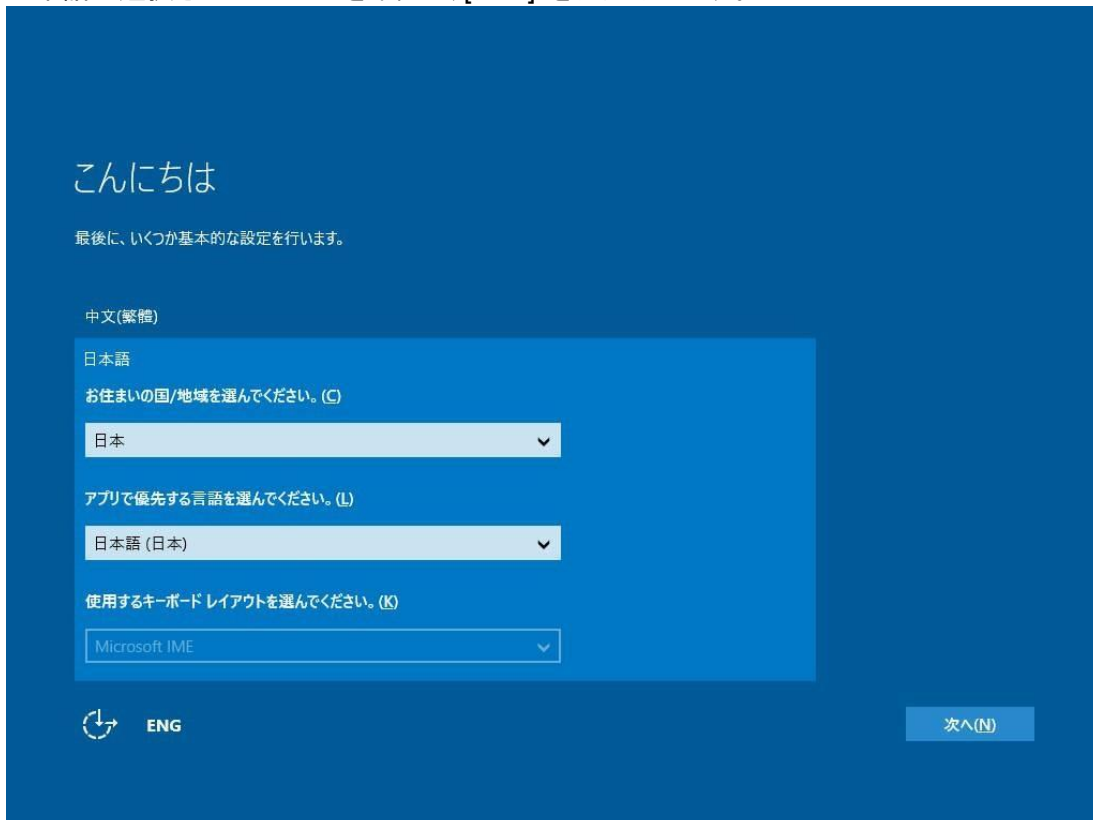
Arcserve UDP アプライアンスを管理するために、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワーク ポートを設定する必要があります。次の手順に従ってください。

### 1. [Hi there]/[こんにちは]

Arcserve UDP アプライアンス本体の電源がオンになると、以下の画面が表示されます。「日本語」をクリックし、選択します。

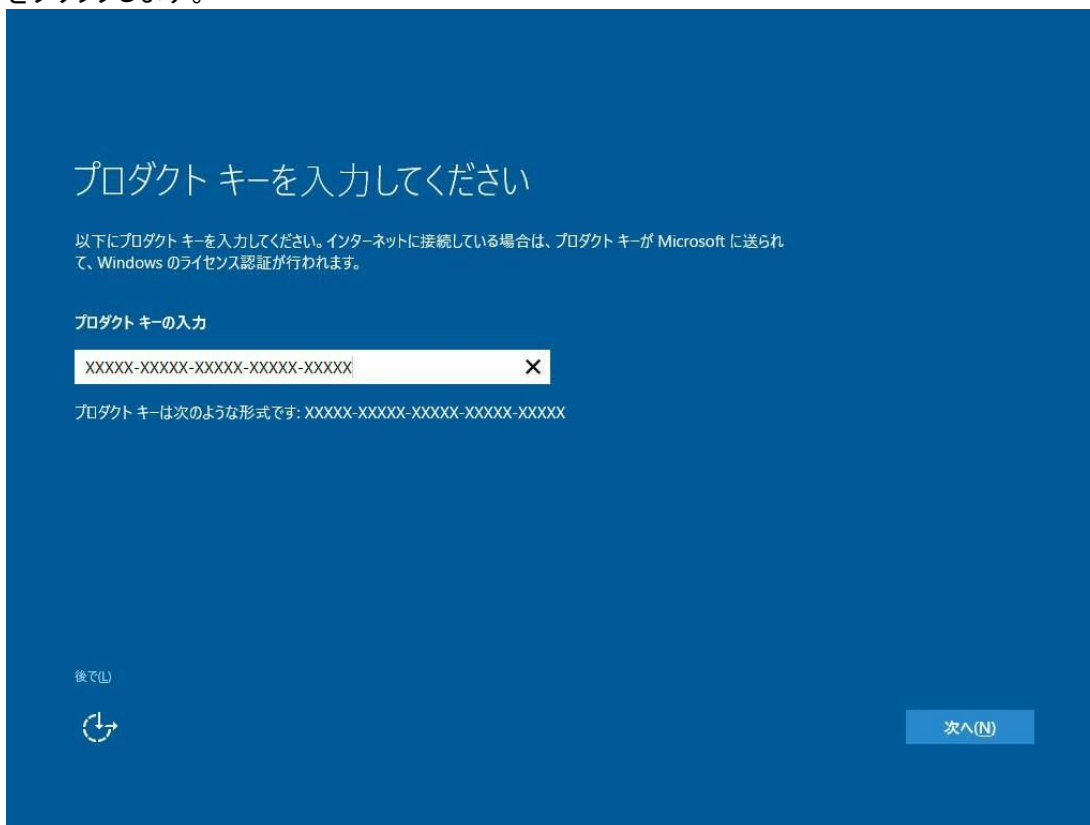


日本語が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



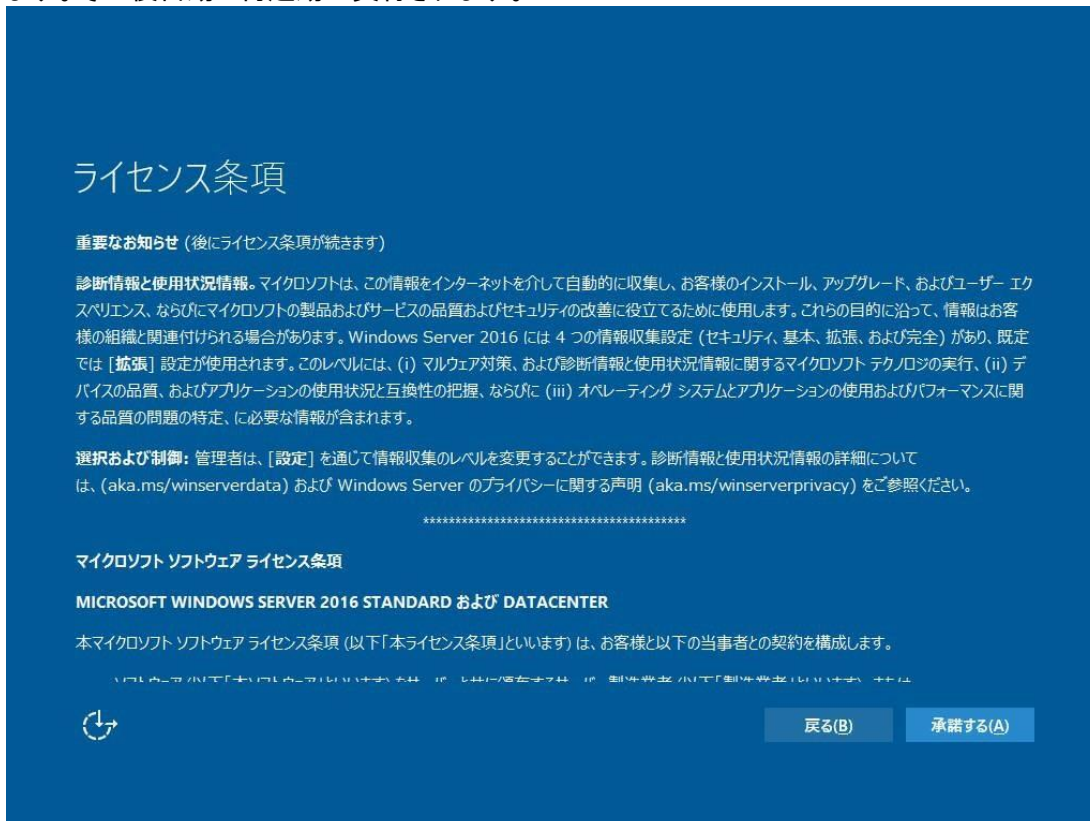
## 2. [プロダクト キーを入力してください]

本体天板カバーに貼付されている英数 25 桁の Windows ライセンス(プロダクト キー)を入力し、[次へ] をクリックします。



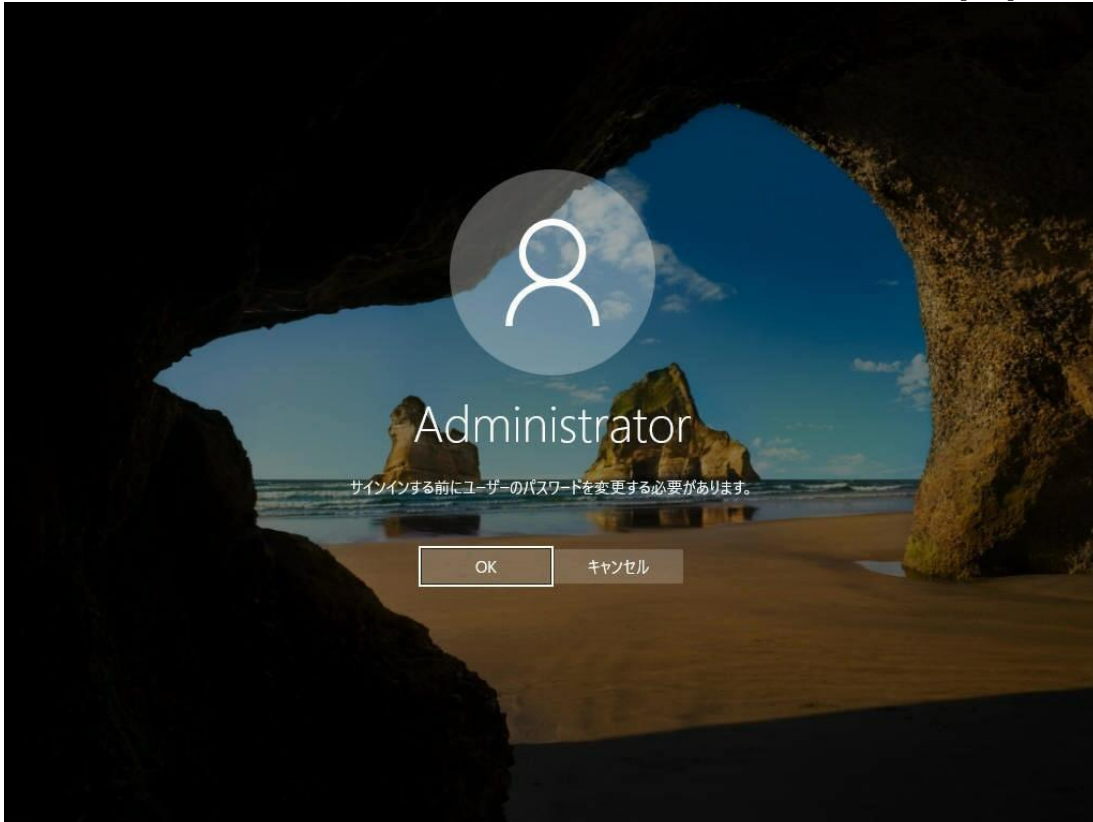
## 3. [ライセンス条項]

[重要なお知らせ] および [マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項] を確認し、[承諾する] をクリックします。その後自動で再起動が実行されます。



## 4. [パスワードの変更]

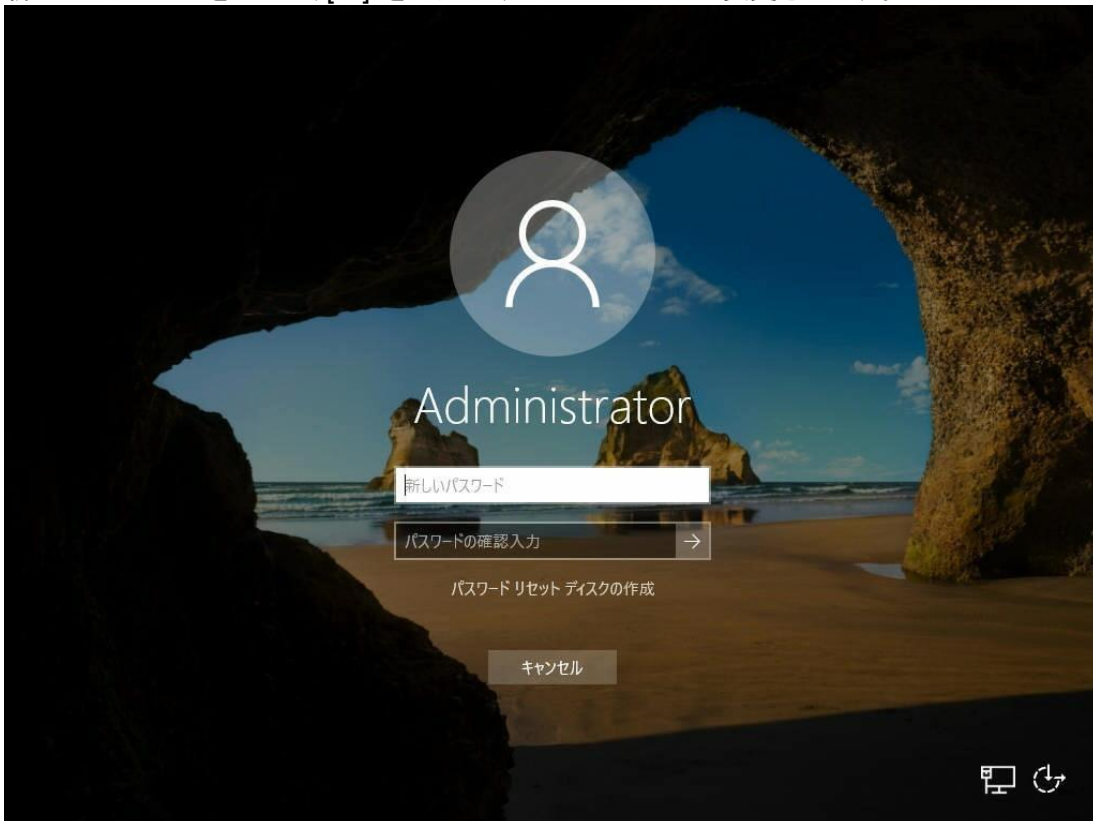
再起動後、サインインする前にユーザーのパスワードを変更する必要があります。[OK] をクリックします。



※ ここでしばらく時間が経過すると、画面がロックされます。[Ctrl]+[Alt]+[Del] キーを押してしてロックを解除した後、[サインイン] ボタンをクリックすると上記のパスワード変更画面に戻ります。

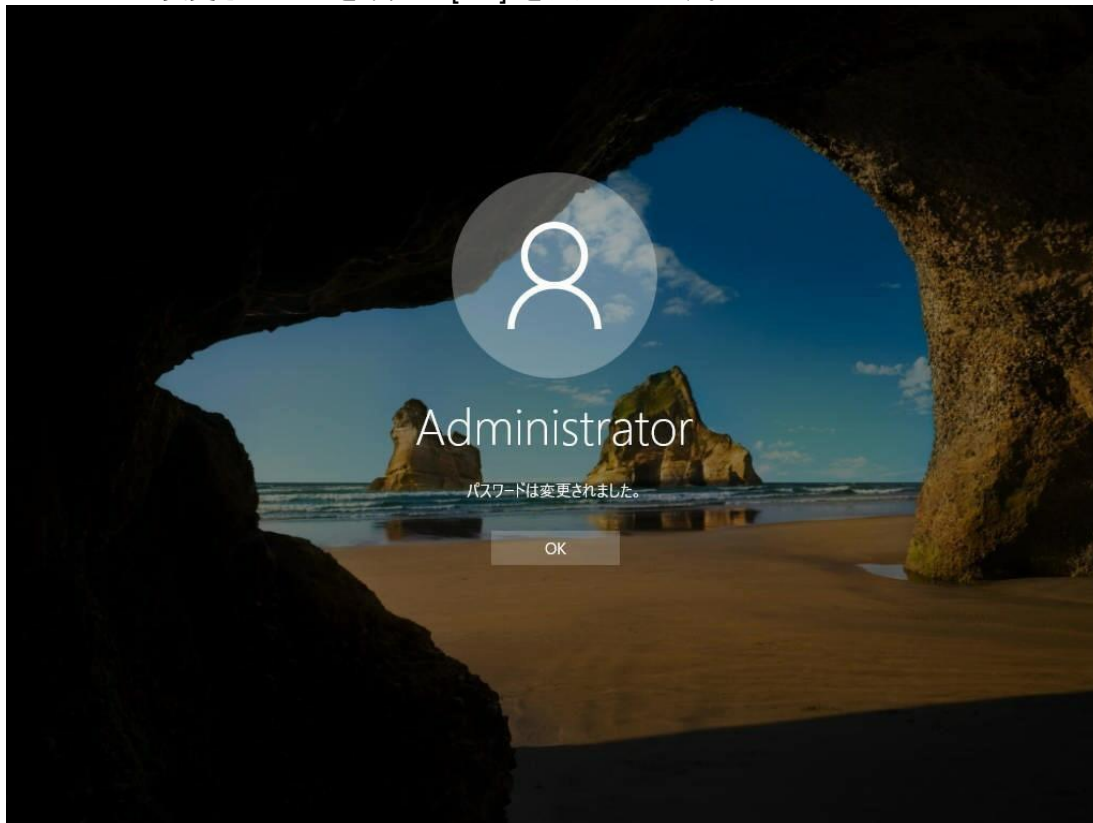
## 5. [パスワードの変更]

新しいパスワードを入力し、[→] をクリックするとパスワードが変更されます。



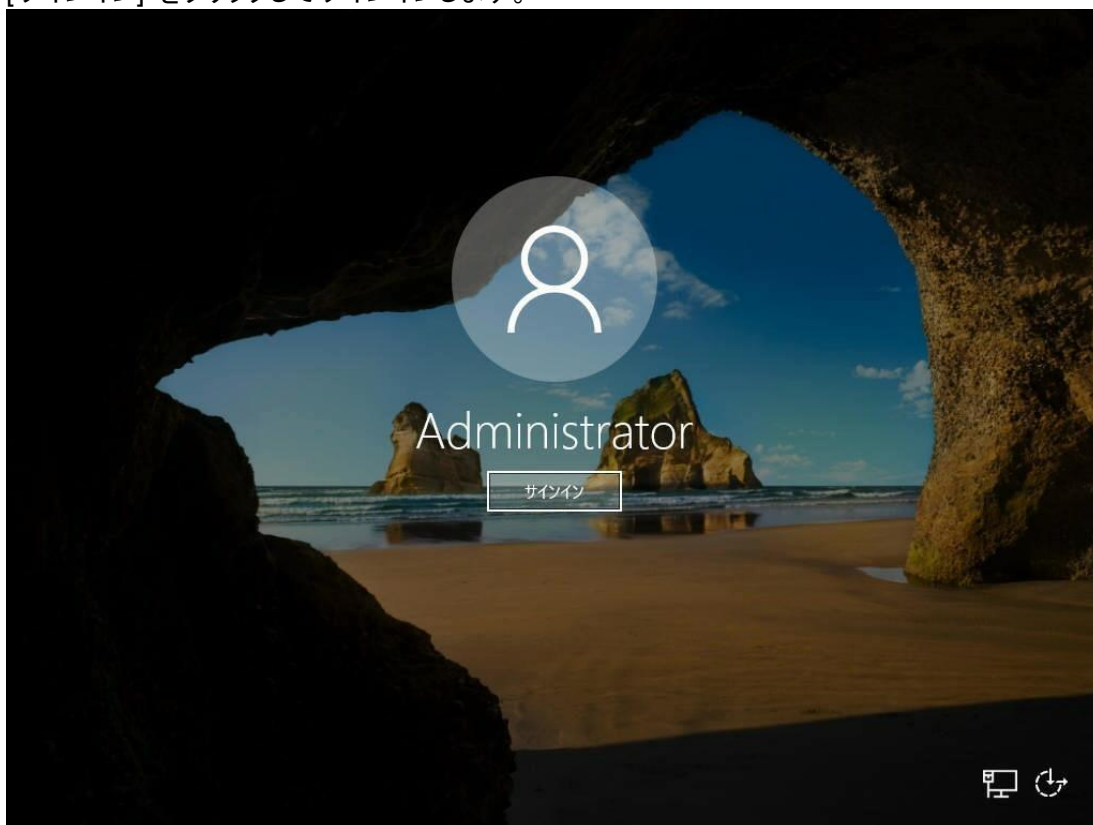
## 6. [パスワードの変更]

パスワードが変更されたことを確認し [OK] をクリックします。



## 7. [サインイン]

[サインイン] をクリックしてサインインします。



# Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

サインイン後、UDP アプライアンス環境設定ツールが開始します。

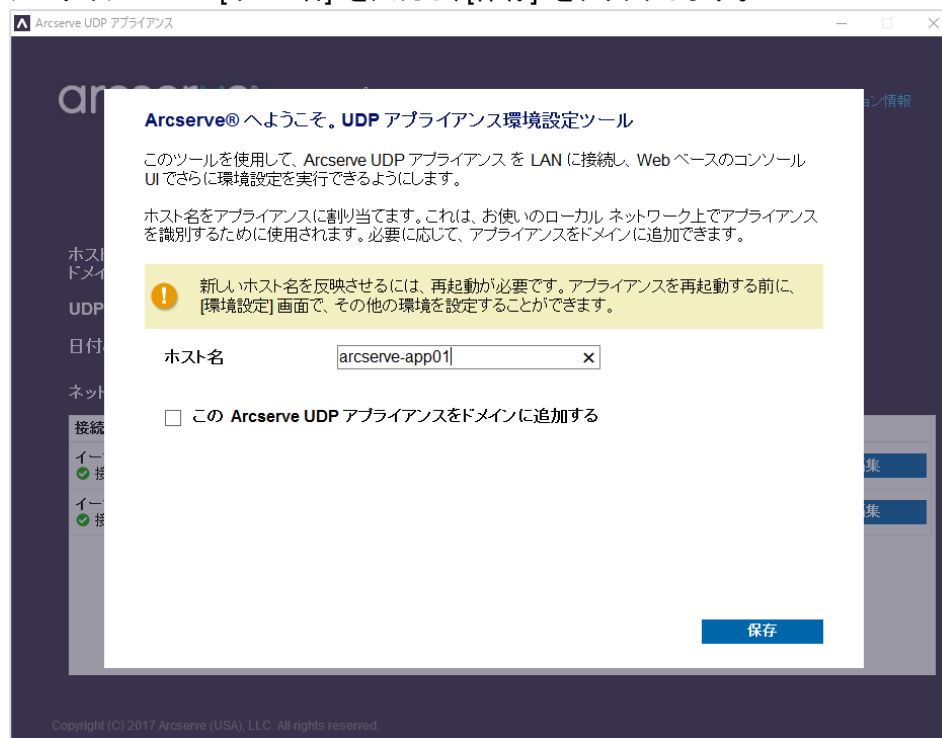
## 8. [ユーザ使用許諾契約]

[ユーザ使用許諾契約] ダイアログ ボックスが表示されます。使用許諾契約の内容を確認し、同意する場合は「使用許諾契約の条件に同意します」を選択し、[次へ] をクリックします。



## 9. [Arcserve へようこそ。UDP アプライアンス環境設定ツール]

アプライアンスの [ホスト名] を入力し、[保存] をクリックします。



※ [ホスト名] にはアンダースコア(\_)を含まないでください。Arcserve UDP v6.5 update1 以降ではホスト名にアンダースコアを含めると Arcserve UDP コンソールにアクセスできなくなります。

※ [この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加する] オプションにチェックすると、アプライアンスをネットワーク内の Active Directory ドメインのメンバにすることができます。必要に応じてドメイン、ユーザ名、パスワードを指定します。



## 10. [UDP アプライアンス環境設定]

UDP アプライアンス環境設定ツールはすべてのネットワーク接続を自動検出します。まず、[日付と時刻]の右横の [編集] をクリックします。

Copyright (C) 2017 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

※ [接続名] の末尾の番号および [説明] 列のデバイス名の末尾の番号が、実際に Arcserve UDP アプライアンスに搭載されているネットワーク アダプタの数よりも大きなものになることがあります。

## 11. [日付と時刻の設定]

[タイムゾーン] が「(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京」になっている事を確認します。[日付] と [時間] の値が正しいことを確認し、[保存] をクリックします。

Copyright (C) 2017 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

## 12. [ネットワーク接続の設定]

各ネットワーク接続の右端の [編集] をクリックし、IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバーの値を必要に応じて変更し、[保存] します。



## 13. [アプライアンスを再起動]

設定が完了したら、[アプライアンスを再起動] をクリックし、ホスト名およびドメイン設定を有効にします。

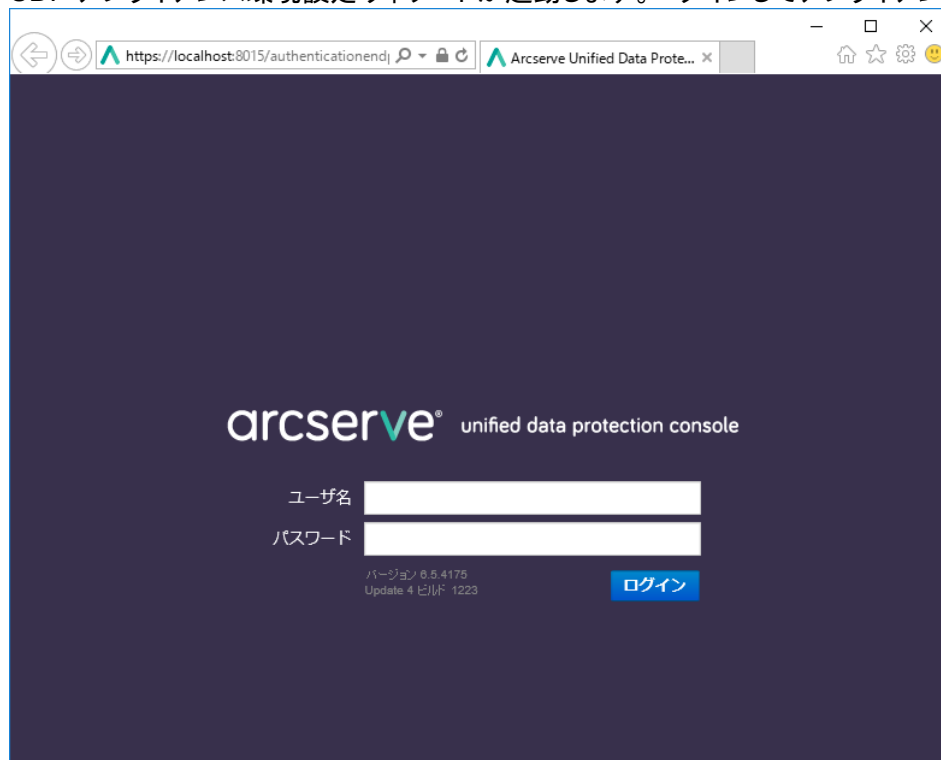


## 14. [ウィザードを起動]

再起動後 Arcserve UDP アプライアンスにサインインすると、UDP アプライアンス環境設定ツールが再び立ち上がります。[ウィザードを起動] をクリックします。

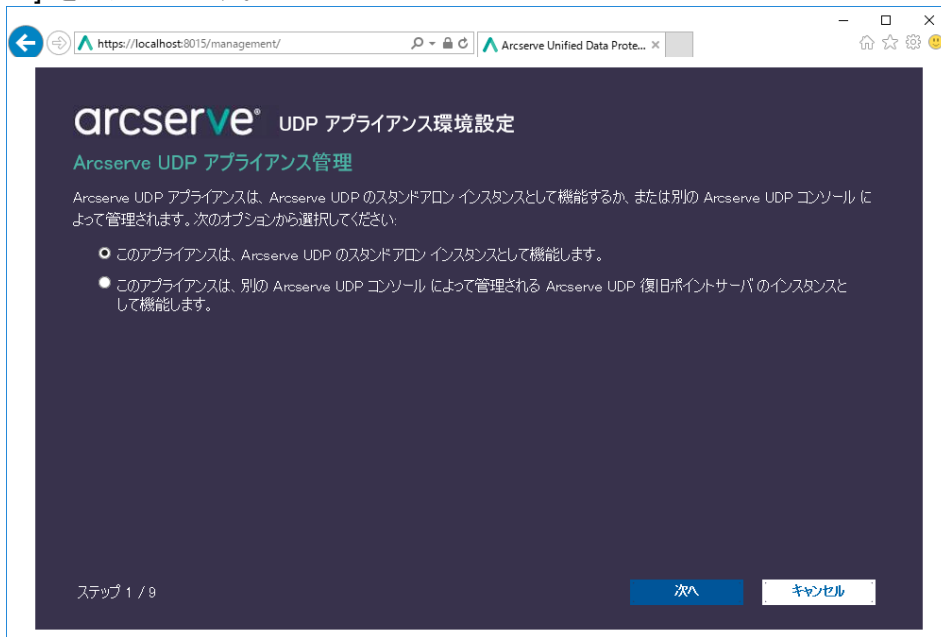


UDP アプライアンス環境設定ウィザードが起動します。ログインしてアプライアンス環境設定を行います。



## 15. [Arcserve UDP アプライアンス管理]

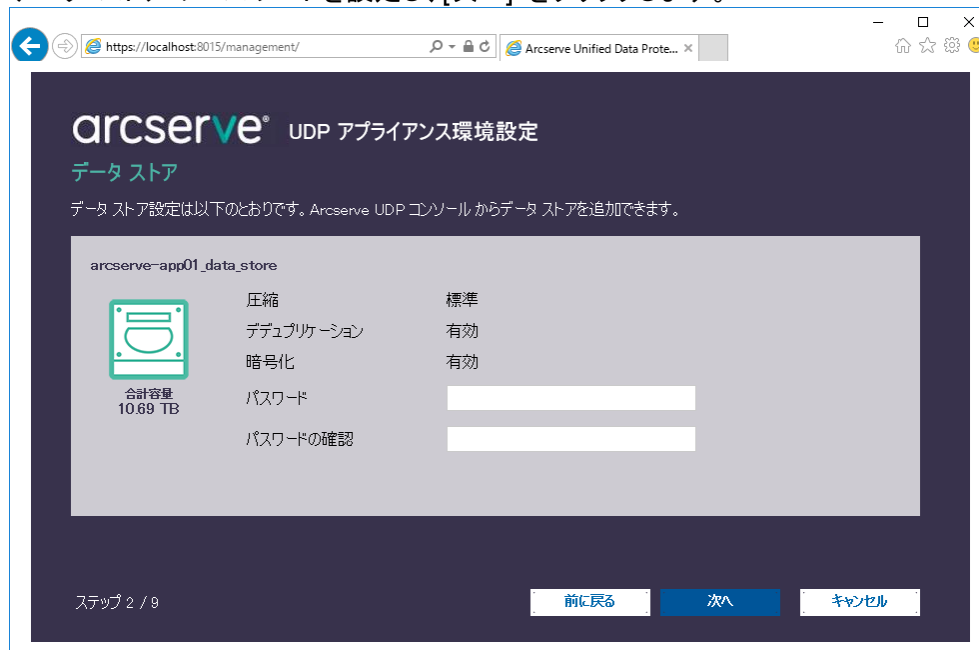
「このアプライアンスは、Arcserve UDP のスタンドアロン インスタンスとして機能します。」を選択し、[次へ] をクリックします。



- ※ 複数台の Arcserve UDP アプライアンスをお持ちの場合は、1 台目の Arcserve UDP コンソールで 2 台目以降を統合管理できます。2 台目以降の設定の際に [このアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールによって管理される Arcserve UDP 復旧ポイントサーバのインスタンスとして機能します。] を選択し、1 台目のアプライアンスの Arcserve UDP コンソールの URL、ユーザ名、パスワードを入力してください。

## 16. [データ ストア]

データ ストアのパスワードを設定し、[次へ] をクリックします。



- ※ データ ストアは、Arcserve UDP アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用されます。UDP アプライアンス環境設定ウィザードでは <hostname>\_data\_store という名前のデータ ストアを作成します。このデータ ストアは以下のように設定されます。

設定	
圧縮タイプ	標準
暗号化アルゴリズム	AES-256
バックアップ先	X%Arcserve%data_store%common
同時アクティブ ノード	20
データストア設定	
データファイル パス	X%Arcserve%data_store%data
インデックス ファイル パス	X%Arcserve%data_store%index
ハッシュ ファイル パス	Y%Arcserve%data_store%hash
ハッシュメモリ サイズ	12288 MB

- ※ UDP アプライアンス環境設定ウィザードで作成されるデータストアのデデューPLICATION ブロックサイズは 4 KB です。
- ※ ハッシュ ファイル パスである Y: ドライブは SSD 上のボリュームです。
- ※ データ ストアの設定変更や追加作成が必要であれば、UDP アプライアンス環境設定ウィザード終了後に Arcserve UDP コンソールで設定できます。デデューPLICATIONが有効なデータ ストアを追加作成する際には、必ず [ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある] にチェックを入れて、ハッシュ デスティネーションを Y: ドライブ内のディレクトリにしてください。



## 17. [電子メールとアラート]

このダイアログ ボックスでは、アラートを送信するために使用される電子メール サーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。必要に応じてそれぞれの設定を行います。

The screenshot shows the 'arcserve® UDP アプライアンス環境設定' (Arcserve UDP Administration Environment Setup) dialog box, specifically the '電子メールとアラート' (Email and Alerts) section. The interface is in Japanese and includes the following elements:

- 電子メール通知の設定と受信するアラート通知の種類の設定を行います。** (Configure email notification settings and the type of alert notifications to receive.)
- 電子メール通知を有効化します。 (Enable email notifications.)
- サービス: その他 (Service: Other)
- 電子メール サーバ: [Input field]
- ポート: 25 (Port: 25)
- 電子メール サービスには認証が必要です。 (Email service requires authentication.)
- 件名: Arcserve Unified Data Protection アラート (Subject: Arcserve Unified Data Protection Alert)
- 送信者: [Input field]
- 受信者: 複数の電子メール アドレスはセミコロンで区切ります (Recipients: Separate multiple email addresses with semicolons)
- オプション(O):
  - SSL を使用 (Use SSL)
  - STARTTLS の送信 (Send STARTTLS)
  - HTML 形式を使用 (Use HTML format)
- プロキシ サーバを使用して接続する (Use proxy server for connection) with a 'プロキシ設定' (Proxy Settings) button.
- テスト電子メールの送信 (Send test email) button.
- 送信されるアラート (Alerts to be sent):
  - 成功したジョブ (Successful jobs)
  - 失敗したジョブ (Failed jobs)
- ステップ 3 / 9 (Step 3 / 9)
- Navigation buttons: 前に戻る (Previous), 次へ (Next), キャンセル (Cancel).

※ 各項目の詳細は Arcserve UDP ソリューション ガイドをご覧ください。

## 18. [リモート RPS へのレプリケーション]

「このアプライアンスはリモートで管理されている RPS ヘレプリケートしません。」を選択し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'arcserve® UDP アプライアンス環境設定' (Arcserve UDP Administration Environment Setup) dialog box, specifically the 'リモート RPS へのレプリケーション' (Replication to Remote RPS) section. The interface is in Japanese and includes the following elements:

- リモートで管理されている復旧ポイント サーバへレプリケートする場合は、以下の設定を行います。** (If replicating to a recovery point server managed remotely, perform the following settings.)
- このアプライアンスはリモートで管理されている RPS ヘレプリケートします。 (This appliance replicates to a remote RPS managed by this appliance.)
- このアプライアンスはリモートで管理されている RPS ヘレプリケートしません。 (This appliance does not replicate to a remote RPS managed by this appliance.)
- ステップ 4 / 9 (Step 4 / 9)
- Navigation buttons: 前に戻る (Previous), 次へ (Next), キャンセル (Cancel).

## 19. [プランの作成]

1つ目のプランを作成します。各項目を設定し [次へ] をクリックします。(ここで [プラン作成をスキップ] をクリックし、後から Arcserve UDP コンソールでプランを作成する事も可能です。)

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

### プランの作成

次に、データの保護プランを作成する必要があります。保護プランでは、ノードを追加し、バックアップ スケジュールを設定します。複数の保護プランを作成できます。

[プラン作成をスキップ](#)

プラン名

セッション パスワード

パスワードの確認

セッション パスワードを保存します。データをリストアする際に必要です。

ノードをプランにどのように追加しますか?

- ホスト名/IP アドレス (Windows マシンのみ)
- Active Directory からのノードのディスカバリ
- vCenter/ESXi からインポート
- Hyper-V からインポート

ステップ 5 / 9

[前に戻る](#) [次へ](#) [キャンセル](#)

### [プラン名]

プランの名前を指定します。(プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。)

### [セッション パスワード]

セッション パスワードを指定します。セッション パスワードはデータのリストア時に必要となるため、忘れないように注意してください。

### [ノードをプランにどのように追加しますか?]

ノードをプランに追加する方法を選択します。この例では「ホスト名/IP アドレス (Windows マシンのみ)」を選択しています。

## 20. [ノードの追加]

バックアップ対象のノード情報を入力し [リストに追加] をクリックします。[プランで保護されているノード] リストにノードが追加されたことを確認し、[次へ] をクリックします。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

### ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

選択した Windows ノードのホスト名/IP アドレス情報を入力し、プランに追加できるようにします。

ホスト名/IP アドレス

ユーザ名

パスワード

説明

[リストに追加](#)

[プランの作成のキャンセル](#)

プランで保護されているノード

ノード名

左のフィールドを使用して、プランにノードを追加します。

[削除](#)

ステップ 6 / 9

[前に戻る](#) [次へ](#) [キャンセル](#)

## 21. [バックアップ スケジュール]

Arcserve UDP エージェント (Windows) のインストールのタイミングと日次増分バックアップの実行時間を設定し、[次へ] をクリックします。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定  
バックアップ スケジュール

プランのバックアップ スケジュールの基準を入力します。

インストール/アップグレードおよび再起動のタイミング: 金曜日 21 : 00

日次増分バックアップの実行: 22 : 00

**スケジュール サマリ** (選択内容に基づく)

金曜日の 21:00 に、Arcserve UDP エージェントの最新バージョンがまだインストールされていないすべてのソース ノードに最新バージョンがインストールされます。  
Hyper-v または vCenter/ESX からインポートされたノードには、エージェントはインストールされません。

金曜日の 22:00 に、最初のフル バックアップが実行されます。  
インストール/アップグレードが完了した後は、毎日 22:00 に増分バックアップが実行されます。

プランの作成のキャンセル

ステップ 7 / 9

前に戻る 次へ キャンセル

### [インストール/アップグレードおよび再起動のタイミング]

前ステップで追加したノードに対して Arcserve UDP エージェントのインストールが予約されます。必要に応じて、スケジュールを変更してください。

### [日次増分バックアップの実行]

このウィザードでは、日次の増分バックアップの開始時刻を設定できます。その他のバックアップ スケジュールを設定する場合はウィザード終了後、Arcserve UDP コンソールから詳細設定を行います。

※ この日次増分バックアップ プランの復旧ポイントの保存数は、「日:7、カスタム/手動:31」に設定されています。必要に応じて、Arcserve UDP コンソールから変更できます。

※ 日次増分バックアップの実行時刻をインストール/アップグレードの時刻より前に指定すると、自動的にインストール後にバックアップが予約されます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の 21 時にスケジュールし、バックアップを 20 時にスケジュールした場合、初回のバックアップは土曜日の 20 時に実行されます。

※ 増分バックアップ スケジュールは、初回にフル バックアップが実行され、2 回目以降に増分バックアップが実行されます。

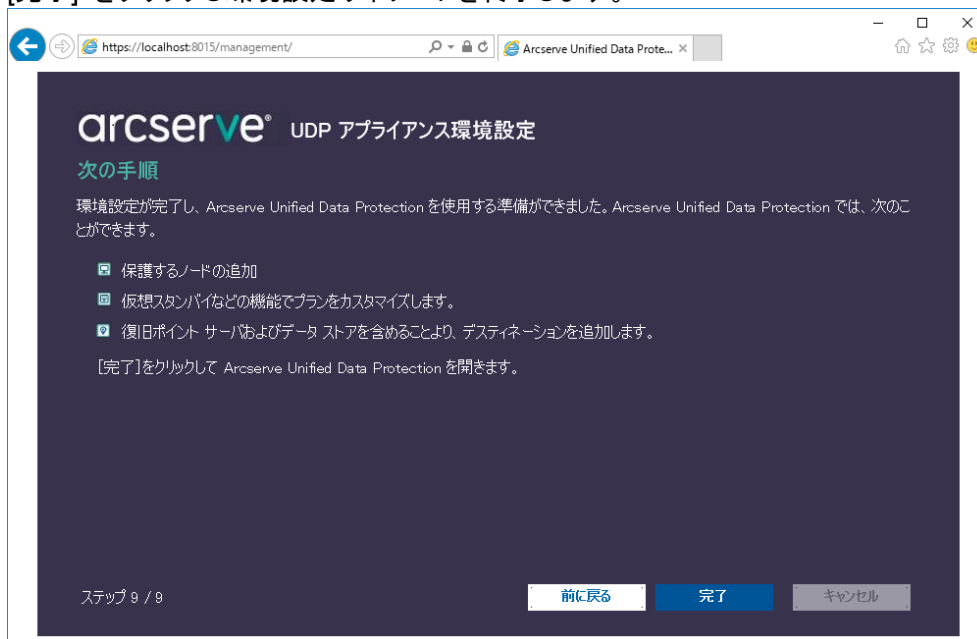
## 22. [プランの確認]

作成したプランの詳細を確認し、問題がなければ [次へ] をクリックします。必要に応じて、[ノードの編集] または [スケジュールの編集] をクリックしてノードやスケジュールを再設定できます。また、プランを追加/削除することもできます。



## 23. [次の手順]

[完了] をクリックし環境設定ウィザードを終了します。



環境設定ウィザードが完了すると、Arcserve UDP コンソールが自動的に起動します。必要に応じて、データストアやプランのカスタマイズを行います。

※ 以後、他の任意のマシンから以下の URL を使用して Arcserve UDP コンソールにアクセスすることができます。  
`https://<hostname>:8015`

### 11 Arcserve UDP のライセンス キーの登録

---

UDP アプライアンス環境設定ウィザードで「このアプライアンスは、Arcserve UDP のスタンドアロン インスタンスとして機能します。」を選んだ場合、Arcserve UDP コンソールにライセンス キーを登録する必要があります。

下記 WEB サイトを参考にライセンスを登録してください。ライセンスキーは電子メールで納品されるライセンス プログラム証書に記載されています。

・ライセンス登録方法

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing/>

※ ライセンス プログラム証書には以下のライセンス キーが記載されています。(ソフトウェア アップグレード オプションを購入した場合は、上位エディションのライセンス キーが記載されます。)

- ① **Arcserve UDP v6.5 Advanced Edition - Appliance**  
Arcserve UDP アプライアンスへバックアップを行うためのライセンスです。Arcserve UDP コンソールに登録します。
- ② **Arcserve UDP v6.5 Advanced Edition - Socket (to protect the appliance itself)**  
Arcserve UDP アプライアンス自身を外部デバイスへバックアップするためのライセンスです。
- ③ **Arcserve Backup r17.5 Tape Integration for Arcserve UDP**  
Arcserve UDP のバックアップデータを Arcserve Backup で二次バックアップするためのライセンスです。Arcserve Backup マネージャにキーを登録します。

### 12 オプション増設カードのドライバのインストール

---

オプション増設カードを追加した場合、製品によってはデバイス ドライバが標準でインストールされておらず、デバイス マネージャで [不明なデバイス] として表示される事があります。そのため、最新のデバイス ドライバをインストールしてください。ドライバのダウンロード先は以下の KB をご覧ください。

・オプション増設カードのデバイス ドライバ ダウンロード先について

<https://support.arcserve.com/s/article/208386083?language=ja>

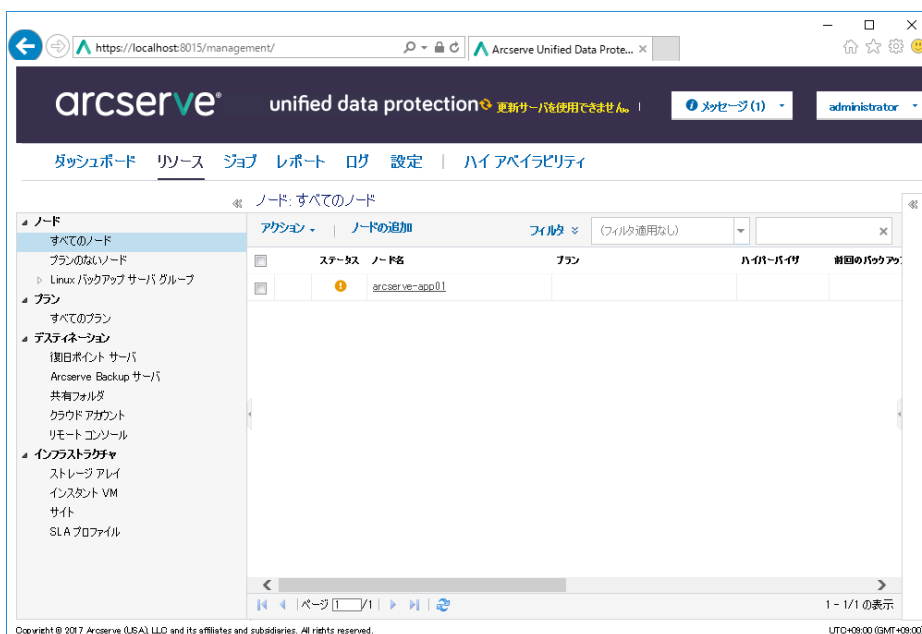


## 13 Arcserve UDP アプライアンス自体のバックアップ

**重要:** 本項は必ず実施してください。Arcserve UDP アプライアンス自体をバックアップしておかないと、ハードウェア障害やシステム障害時に復旧できなくなる恐れがあります。

### 1. ノード登録の確認

Arcserve UDP コンソールで [リソース]-[すべてのノード] を開き、Arcserve UDP アプライアンス本体が追加されている事を確認します。表示されていない場合は [ノードの追加] ボタンから追加してください。



### 2. バックアップ プランの作成

Arcserve UDP アプライアンス本体を保護するバックアップ プランを作成します。以下設定例です。

「バックアップ: エージェントベース Windows」のプランを作成し、[ソース] タブで Arcserve UDP アプライアンスを保護対象ノードに追加します。[保護タイプ] で「すべてのボリュームのバックアップ」が選択されている事を確認してください。「すべてのボリュームのバックアップ」を選択しても Arcserve UDP のデスティネーションとして利用されているドライブ (Xドライブと Yドライブ) は自動的にバックアップ対象から除外され、Arcserve UDP アプライアンスの復旧に必要なボリュームだけがバックアップされます。



## Arcserve® UDP 8000 シリーズ はじめにお読みください

このプランは、Arcserve UDP アプライアンスが壊れたときのためのバックアップです。そのため、必ず Arcserve UDP アプライアンス外部のディスクへバックアップしてください。以下の例ではデスティネーションとして外部の共有フォルダ(¥¥からはじまる UNC パス)を指定しています。

The screenshot shows the 'プランの追加' (Add Plan) configuration window. At the top, there are buttons for 'ローカル サイト-新規のプラン' (Local Site - New Plan), a checkbox for 'このプランを一時停止' (Suspend this plan), and buttons for '保存' (Save), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help). Below this, the 'タスクの種類' (Task Type) is set to 'バックアップ: エージェントベース Windows' (Backup: Agent-based Windows). A 'タスクの削除' (Delete Task) button is visible. The main configuration area is divided into tabs: 'ソース' (Source), 'デスティネーション' (Destination), 'スケジュール' (Schedule), and '拡張' (Extension). The 'デスティネーション' (Destination) tab is active, showing options for 'デスティネーションの種類' (Destination Type) with radio buttons for 'ローカル ディスクまたは共有フォルダ' (Local disk or shared folder) and 'Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ' (Arcserve UDP Recovery Point Server). The 'ローカル ディスクまたは共有フォルダ' option is selected. Below this, the 'デスティネーション' (Destination) field contains '¥¥NAS¥Share', with a '参照' (Reference) button. Other fields include 'バックアップの種類' (Backup Type) with options for 'フル バックアップ' (Full Backup) and '増分バックアップ' (Incremental Backup), '暗号化アルゴリズム' (Encryption Algorithm) set to '暗号化なし' (No encryption), '暗号化パスワード' (Encryption Password), '暗号化パスワードの確認' (Verify Encryption Password), and '圧縮を有効にする' (Enable Compression) set to '標準' (Standard).

※ Arcserve UDP アプライアンスのベアメタル復旧後、データ ストアの再作成が必要になります。リカバリ後に備えてデータ ストアの設定情報を記録しておくことをお勧めいたします。

※ X:ドライブに保存されるバックアップ データをさらにバックアップしたい場合は、以下のいずれかの機能が使用できます。

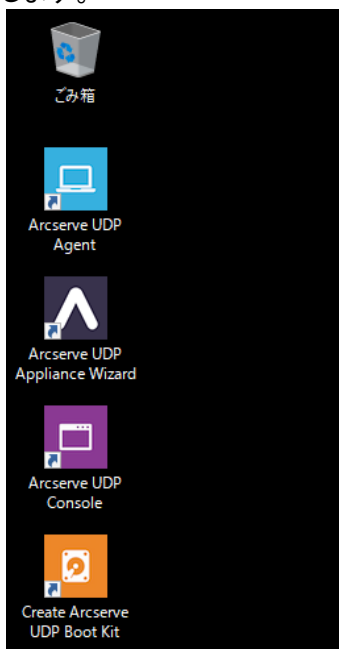
- 復旧ポイントのコピー
- 復旧ポイント サーバ(RPS)間/RPS 内のレプリケーション
- Arcserve Backup と連携したテープへの二次バックアップ

## 14 復旧用メディアの作成

前項で取得したバックアップ データから Arcserve UDP アプライアンス自身をベアメタル復旧 (BMR) できるようにするため、復旧用メディア (ブートキット) を作成し、Arcserve UDP アプライアンスの外部に保管します。

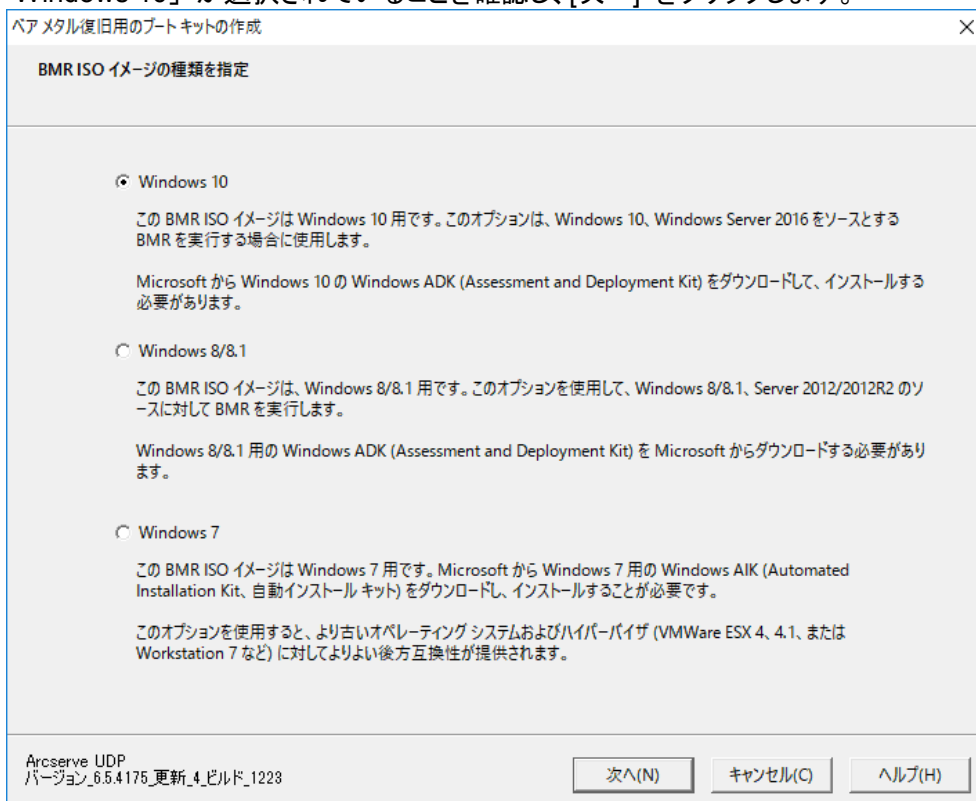
### 1. [ベアメタル復旧用のブートキットの作成]

デスクトップの [Create Arcserve UDP Boot Kit] アイコンをクリックし、ブートキット作成ウィザードを起動します。



### 2. [BMR ISO イメージの種類を指定]

「Windows 10」が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



### 3. [ブートキット方式の選択]

ブートキット方式を選択し、[次へ] をクリックします。本書では「ブート可能 BMR ISO イメージの作成」を選択します。

bare metal recovery boot kit creation

ブートキット方式の選択

ブート可能 BMR ISO イメージの作成

ブート可能 BMR USB メモリの作成

ブート可能 ISO イメージまたは USB メモリを作成できます。作成したら、BMR を実行するために使用できます。

BMR USB メモリを作成するオプションを選択した場合、USB メモリがコンピュータに用意されており、書き込み可能であることを確認します。

Arcserve UDP  
バージョン\_6.5.4175\_更新\_4\_ビルド\_1223

戻る(B) 次へ(N) キャンセル(C) ヘルプ(H)

### 4. [プラットフォームとデスティネーションの選択]

[x64 プラットフォーム用の BMR イメージ] にチェックが入っていることを確認し、[次へ] をクリックします。

bare metal recovery boot kit creation

プラットフォームとデスティネーションの選択

プラットフォームの指定

x86 プラットフォーム用の BMR イメージ

x64 プラットフォーム用の BMR イメージ

x86 または x64 プラットフォーム用の BMR イメージを生成できます。両方のオプションを選択すると、2つのプラットフォームを1つのイメージに統合できます。

UEFI ファームウェアシステムをブートするには、x64 プラットフォーム用 BMR イメージを選択してください。

デスティネーションの指定

BMR ISO イメージを保存するための保存先フォルダを参照します:

C:\Users\Administrator 参照

注: BMR ISO イメージ ファイルを保存するには、デスティネーション フォルダに 1 GB 以上の空き容量が必要です。

BMR ISO イメージの名前の入力:

BMR\_x64\_w10\_バージョン\_6.5.4175\_更新\_4\_ビルド\_1223.ISO

Arcserve UDP  
バージョン\_6.5.4175\_更新\_4\_ビルド\_1223

戻る(B) 次へ(N) キャンセル(C) ヘルプ(H)

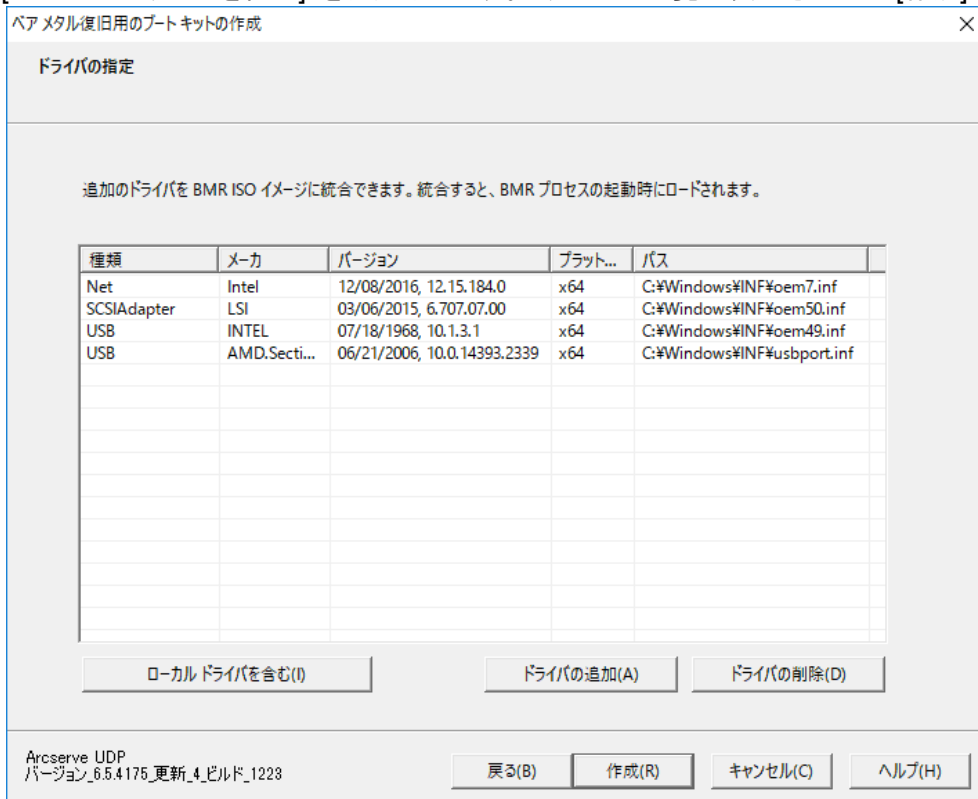
## 5. [言語の選択]

[日本語] のみが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



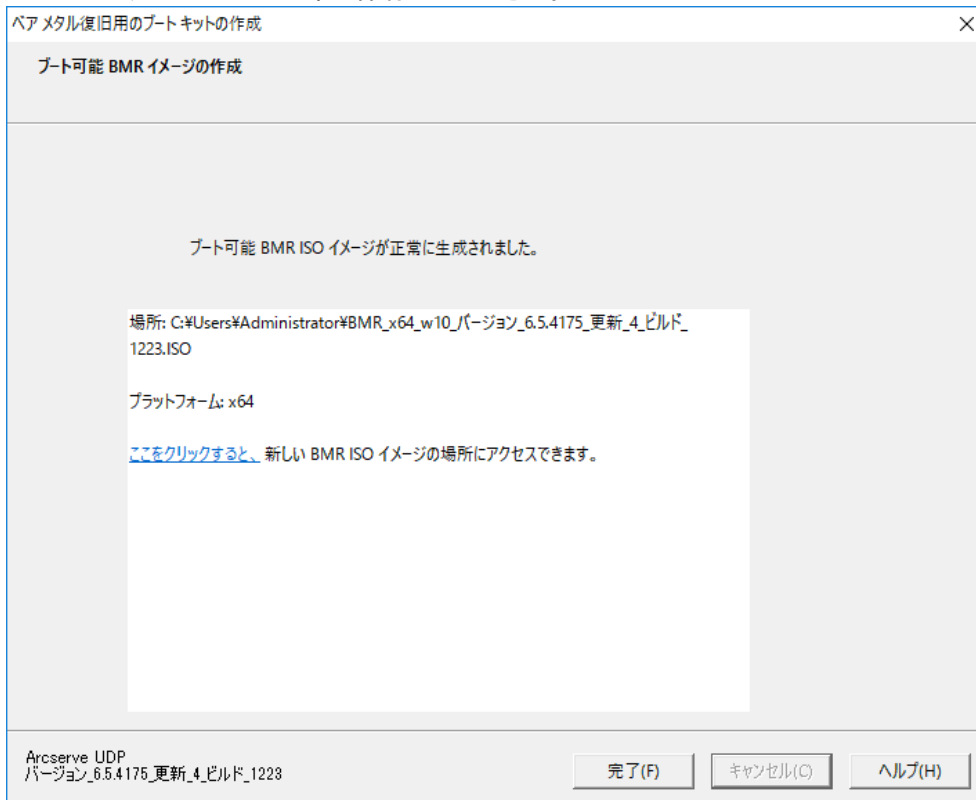
## 6. [ドライバの指定]

[ローカル ドライバを含む] をクリックします。ドライバの一覧が表示されたら [作成] をクリックします。



## 7. [ブート可能 BMR イメージの作成]

ブート可能イメージが作成されました。ISO イメージを作成した場合は、[ここをクリックすると、] をクリックし、ブート可能 BMR ISO イメージファイルを確認します。この ISO イメージファイルは必ず Arcserve UDP アプライアンスの外部に保存してください。



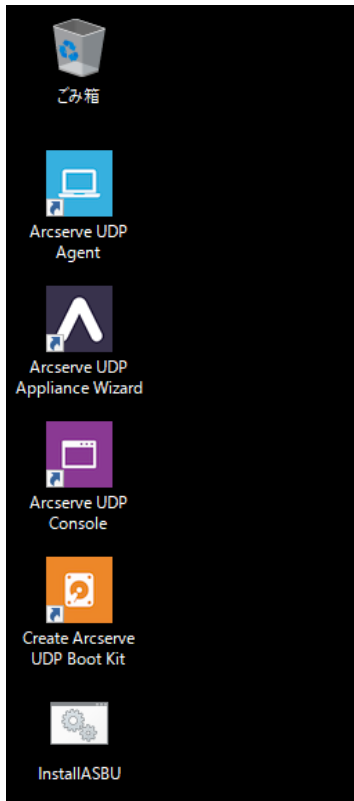
※ Arcserve UDP アプライアンスの BMR を行う手順は、以下の KB も参考にしてください。

・Arcserve UDP Appliance をベアメタル復旧するためにバーチャルメディア機能で復旧メディアをブートする方法

<https://support.arcserve.com/s/article/115005468243?language=ja>

## 15 二次バックアップ用 Arcserve Backup のインストール

主にテープへの二次バックアップ用に、Arcserve Backup をインストールすることができます。必要な場合は、Arcserve UDP アプライアンスのデスクトップ上にある [InstallASBU.bat] を実行して Arcserve Backup をインストールしてください。インストール方法の詳細は「Arcserve UDP アプライアンス ユーザ ガイド」の第3章をご覧ください。



インストールが完了したら、以下の Web サイトで公開されているパッチを適用してください。

・Arcserve Backup r17.5 for Windows ダウンロード情報一覧

<https://support.arcserve.com/s/article/115001198543?language=ja>

ファイル名:P00001125

内容:Arcserve Backup r17.5 SP1 を適用した構成で Arcserve Backup でバックアップを実施している際、適切なライセンスを登録している環境でも、「ジョブエンジン」が停止し、ライセンス不足のエラーが発生しバックアップが失敗する場合があります。

※Enterprise Module (Image Option)、または Agent for Virtual Machines (VM Agent per Host License を含む) を使用する場合は、以下のパッチも適用してください。

ファイル名:P00001189

内容:Enterprise Module (Image Option)、または Agent for Virtual Machines (VM Agent per Host License を含む) を利用している構成でバックアップ・リストアが失敗する場合があります。



### 16 Linux バックアップ サーバの使用方法

---

Arcserve UDP アプライアンスには Linux バックアップ サーバ として使うために、Arcserve UDP Agent for Linux がインストールされた Hyper-V 仮想マシンが用意されています。この Linux バックアップ サーバの使用方法は以下の KB をご覧ください。

・Arcserve UDP Appliance で Linux サーバのバックアップ プランを作成する方法

<https://support.arcserve.com/s/article/115002088143?language=ja>

・Arcserve UDP Appliance にプリインストールされている Linux バックアップ サーバの OS について

<https://support.arcserve.com/s/article/115005666883?language=ja>

・Arcserve UDP Appliance に組み込まれた Linux バックアップ サーバのキーボード レイアウト変更手順

<https://support.arcserve.com/s/article/360000250583?language=ja>

## 17 サポートへのお問合せ

Arcserve UDP アプライアンスにはメンテナンスが標準で付随しており、メンテナンス期間中にチョイスサポートプログラム(CSP)をご利用いただけます。

### ◆ 有償サポートお問い合わせ方法

#### ➤ Arcserve サポートポータルでのお問い合わせ

<https://support.arcserve.com/s/?language=ja> にログインし、[お問い合わせ] からお問い合わせください。Sev1 案件 (本番環境におけるシステムダウン) については対応の迅速化を図るために、弊社サポートセンターまでお電話でご連絡をいただくようお願い致します。

#### ➤ 電話でのお問い合わせ

0120-702-660 (Arcserve サポート CSP 窓口) におかけください。

製品担当者より折り返し対応させていただきます。受付時間は平日の 9 時から 17 時 30 分です。

24 時間 365 日ハードウェア サポート オプションを購入したお客様で、営業時間外のハードウェア サポートを希望される場合は電話でご連絡ください。営業時間外の問合せ受付はハードウェアの問題に限ります。切り分け後にソフトウェアの問題だと判明した場合は、翌営業日以降の対応になります。

### ◆ お問い合わせに必要なもの

お問い合わせの際に以下の情報をご準備ください。(サポート受付時に必要な情報です)

- お客様情報  
会社名、ご担当者名、メールアドレス、電話番号をご用意ください。
- お客様のオーダーID  
ライセンス プログラム証書に記載されているオーダーID をお知らせください。
- 本製品のシリアル番号  
本体天板に貼付されているシリアル番号(12 桁の英数字)をお知らせください。
- 問題と環境の詳細  
ご利用の製品のバージョン、環境(ハードウェア、OS、アプリケーション、ネットワーク)や問題の内容の詳細をできる限り詳細にご確認の上、ご準備いただきますと、問題解決がより早くなります。

### ◆ 初回応答時間目標

折り返し対応のご連絡までのお時間はシビアリティ(重大度)により下記を目安にさせていただきます。

- Sev.1 : プロダクション・システムのダウンまたは稼働不能な状況 … 1 時間以内
- Sev.2 : 製品に関する問題で、影響が大きいと予想されるもの … 2 時間以内
- Sev.3 : 製品に関する問題で、発生頻度が低く、影響が小さいもの … 4 時間以内
- Sev.4 : 製品の使用方法やインプリメンテーションに関する質問 … 1 営業日以内  
(16 時以降にお受けした場合は翌日ご対応させていただく場合があります。)

### ◆ 注意事項・制限事項

本サポート プログラムのサポート条件につきましては Arcserve Appliance Support Policy ([https://supportftp.arcserve.com/zendesk\\_attachments/205489796/Arcserve\\_Appliance\\_\\_Software\\_and\\_Warranty\\_Policy\\_JPN.pdf](https://supportftp.arcserve.com/zendesk_attachments/205489796/Arcserve_Appliance__Software_and_Warranty_Policy_JPN.pdf)) をご覧いただき、同意いただくものとします。

また、本サポート プログラムでは以下の項目についてはサポート範囲を超える制限事項とします。

- Arcserve 製品自体のプログラム変更及びプログラム開発
- プログラムのデバッグ作業
- コンサルティング サービス
- 出張・出向サービス(ハードウェアの修理対応を除く)

すべての製品名および会社名は、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。